TOPICS 4 プルタブ回収で車椅子を寄贈

トピックス ● SPECIAL FEATURES ●

本会では、地域貢献活動として「ボランティア清掃活動」と「プルタブ回収活動」を行ってきましたが、この度、回収したプルタブを一般社団法人環公害防止連絡協議会に引き渡し「車椅子」と交換したため、秋田魁新報社を通じ県内の福祉施設等へ寄贈することとし、3月10日（火）に株式会社秋田魁新報社（秋田市）において、車椅子の贈呈式を行いました。

【贈呈式（左:本会藤澤会長、右：秋田魁新報社熊谷常務取締役）】

贈呈にあたり、本会藤澤正義会長からは、「これまでのプルタブ回収が環境の美化に繋がっただけでなく、車椅子という形で地域の役に立つことができ、大変うれしく思っています。今後も継続して、地域社会に貢献できるよう取り組んで参ります。」と社会貢献活動に対する抱負を述べました。

本会が約3年間にわたり行ったプルタブ回収活動では、会員組合をはじめ秋田市内の小中学校や社会福祉法人等多数の団体・個人からご協力をいただき、1トンを超えるプルタブを回収することができました。

これまで多大なご協力を賜りました皆様に対し、役職員一同、心より御礼を申し上げますとともに、今度ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

【プルタブと交換した車椅子】

地元中小企業者の受注機会の確保について要望

3月23日（月）、由利本荘市管工事協同組合（斉藤誠理事長）の斉藤理事長他理事4名が由利本荘市役所を訪れ、長谷部誠由利本荘市長に対して秋田県官公需受注対策協議会との連名による要望書を手渡し、「分離・分割発注方式の採用」「技術力ある地元企業への発注」「由利本荘市総合防災公園建設工事について」の計3項目について要望を行いました。

【長谷部市長（左）に要望書を渡す斉藤理事長】

由利本荘市では、市内石脇地区の国道7号線に面した「国立療養所跡地」において、平成27年度からの5年計画で総合防災公園の建設工事を予定しています。この工事は、公園造成だけでなく、スポーツ施設や防災機能を合わせた複合型交流施設を建設する大規模な工事であることから、斉藤理事長は「地元中小企業・小規模事業者が受注できるよう分離・分割発注を徹底して頂きたい。」と強く要望しました。

これに対して、長谷部市長からは「地元企業で対応できる工事については、できるだけ地元に行き渡るように配慮していきたい。」との回答を頂きました。